

《元祖》IT革命の エトセトラ

神戸学院大学 経済学部教授
松田 裕之
Horoyuki Matsuda

私は労務管理が専門なのですが、この数年は「情報通信（IT）革命の原風景」をテーマに、電信や電話の発展をめぐる物語を執筆しています。今回はその中から面白そうな話題を二、三ピックアップしてみましょう。

まずは、電信士という仕事。彼らはどんな情報も、サミュエル・モールスといふ人が1844年に世に送った短符（・）と長符（—）の組み合わせ符号に変換してやりとりします。いま私たちが日常使っているコンピュータのプログラムは「0」と「1」の組み合わせからできています。すると、モールス符号を扱う電信士は、「0」と「1」を操るプログラマーやSE

のご先祖様にあたる、ともいえます。ついでながら、今日のインターネットにヒントを与えたのは、何を隠そう、19世紀末の世界をつないだモールス電信網。だから、電信士は『元祖』インターネットを介して最新の情報を真っ先に入手できる史上初の「エチズン」でもありました。

この役得を生かして、成功を手に入れた人物もいます。世界屈指の音楽ホールにその名を残す鉄鋼王アンドルー・カーネギーや、我が国でも人気が高い発明王トーマス・エジソンは若い頃に電信士をしていました。

さて、この電信を応用し、アメリカの音声言語学者グラハム・ベルが1876年に開発した通信手段が電話です。しかし、昔の電話はいまのような直通方式ではなく、電話局に陣取る交換手が顧客同士の回線をつなぐ間接通話方式。実はこの交換手という仕事、いわゆる女性職の草分けの一つで、女性の社会進出を考える上でとても興味深い事例です。

19世紀末の価値観において、家庭で家事・育児・老親の世話を役割とされた女性は、通話交換を依頼する顧客に対して丁寧に接することができました。というのも、通話交換は「声による接客」という面を持っていたからです。この交

こう言うと、女性蔑視だと批判されるかもしれません、むしろ「愛と癒し」という強みを楔として、男の世界であつた職業空間に足場を築き、今日の男女平等をもたらした幾多の女性たちの足跡にこそ敬意を払うべきでしょう。

このように、歴史は私たちが問い合わせることによって、より深くも、より豊かにも答えてくれます。過去と真剣に、しかし楽しみをもつて対話すること。それによつて、現実の問題を認識する糧とする——その一助となるように、執筆に際してはできるだけ平易な表現を心がけています。語り口はいかなる研究を志す者にとつても必須の技能で、これを鍛錬することに怠惰であつてはならない、というのが語り部としての私の自戒でもあります。

換手と並んで、看護士、教師、事務員、窓口対応、小売店員など19世紀末から女性に門戸を開いた職業は、女性が家庭で求められた役割、つまり「愛と癒し」をそのまま家庭外で再現できるものでした。



※バックナンバーは、本学ホームページ（デジタル広報誌）でご覧下さい。



神戸学院大学

<http://www.kobegakuin.ac.jp/>

法学部 経済学部 経営学部 人文学部 鳴谷川ピリテーション学部 栄養学部 薬学部

有瀬キャンパス
ポートアイランドキャンパス
長田キャンパス（法科大学院）

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 TEL:078-974-1551（代）
〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3 TEL:078-974-1551（代）
〒653-0862 神戸市長田区西山町2-3-3 TEL:078-691-4888（代）